

道南太平洋海域スケトウダラニュース

令和5年度 第3号 2024年1月26日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

令和5年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3次調査）結果

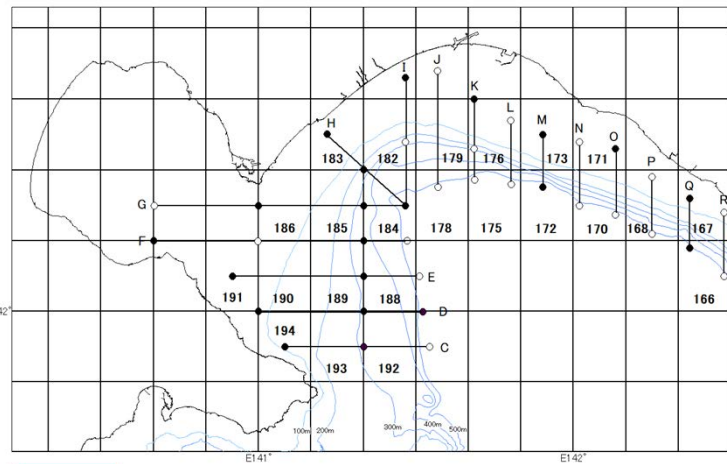
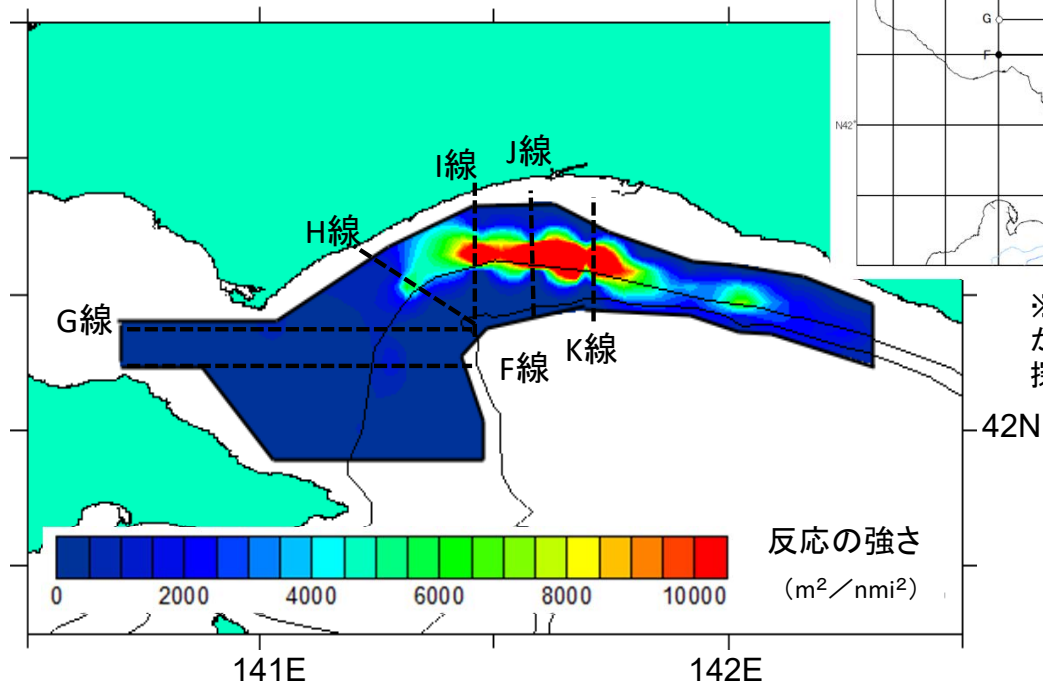
函館水産試験調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2024年1月11～19日（刺し網漁獲物調査2024年1月19日）
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深50～500mの海域（図1右上）

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期をやや上回った。
- ・ 魚群反応の強い海域は胆振沖（白老～苫小牧沖）。
- ・ 反応の強い水深は100m付近。
- ・ 刺し網で漁獲されたスケトウダラの生物測定を行った結果、体長（尾叉長）は40～50cm主体（モード46cm）であった。

1. 今回の調査は、荒天のため調査期間内に日高沖のQ及びRラインの計量魚群探知機による観測はできませんでした。このような状況下でしたが、スケトウダラとみられる魚群は、胆振～日高にかけてまとまった反応がみられました。とくに胆振沖の176・179漁区（白老～苫小牧沖）には強い反応がみられました（図1・2）。
2. 渡島沖から胆振沖にかけての平均反応量は、昨年同期をやや上回り、2013年度（2014年1月）以降では最も高い値となりました（図3）。
3. 魚群反応は、水深50m以深の広い範囲で観察されましたが、その中でも水深100m付近に強い反応がみられました（図4）。とくに胆振沖（I～K線にかけて）の陸棚上（水深100m前後）には海底に着いた強い反応がみられました（図2-2）。
4. 今年度の調査では、トロールによる漁獲調査ができなかったため、漁獲物の組成については、金星丸調査と同時期に行った刺し網漁獲物調査（登別沖）の結果をお知らせします（栽培水産試験場実施）。これによると、刺し網漁獲物の体長（尾叉長）は、40～50cm主体（モード46cm）となっていました（図5）。また、漁獲物の成熟状態（メス）は、胆振沖の陸棚上（水深約100m）で漁獲されたこともあり、ほぼ完熟卵（水子）で占められていました（図6）。

なお、今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。



※今回の調査では、荒天により調査期間が短縮されたため、Q~Rラインの計量魚探観測はできませんでした。

図1 調査海域における魚群の分布(右上図は調査海域図)

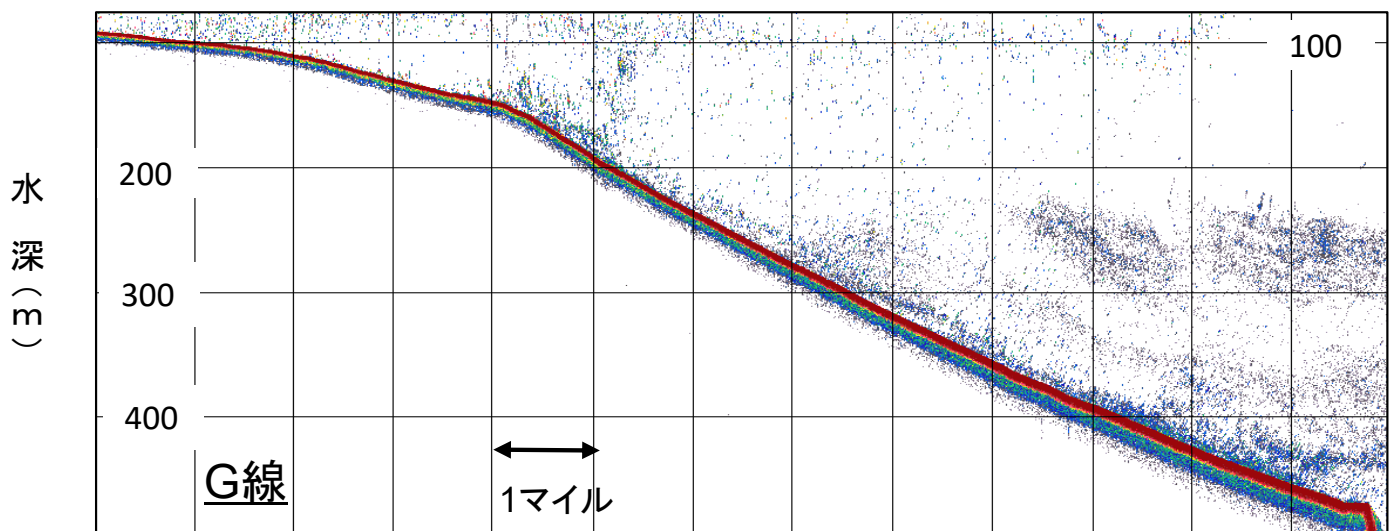
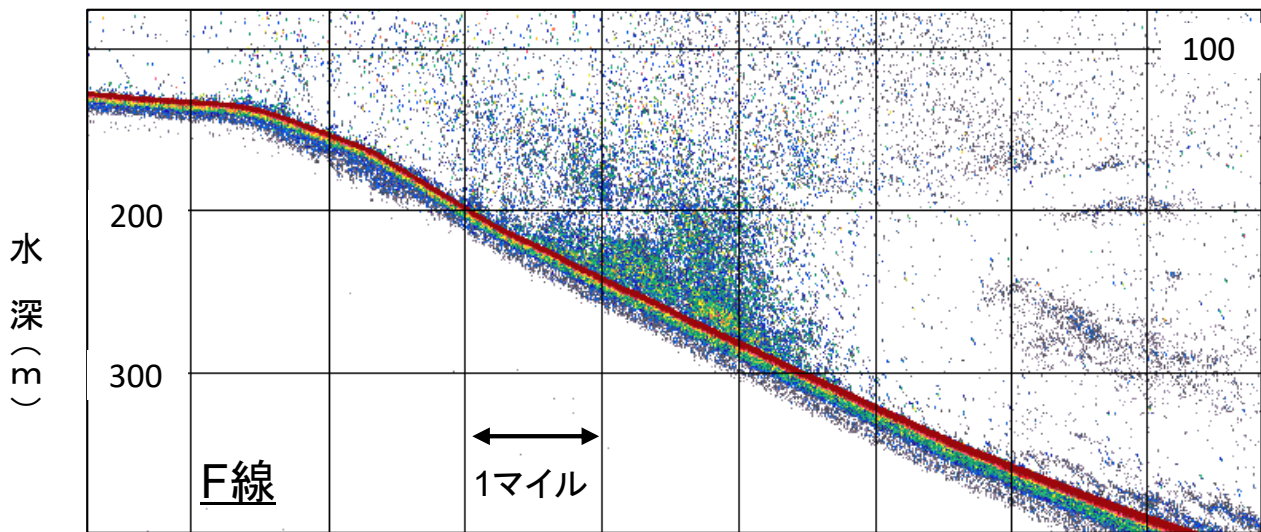


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)

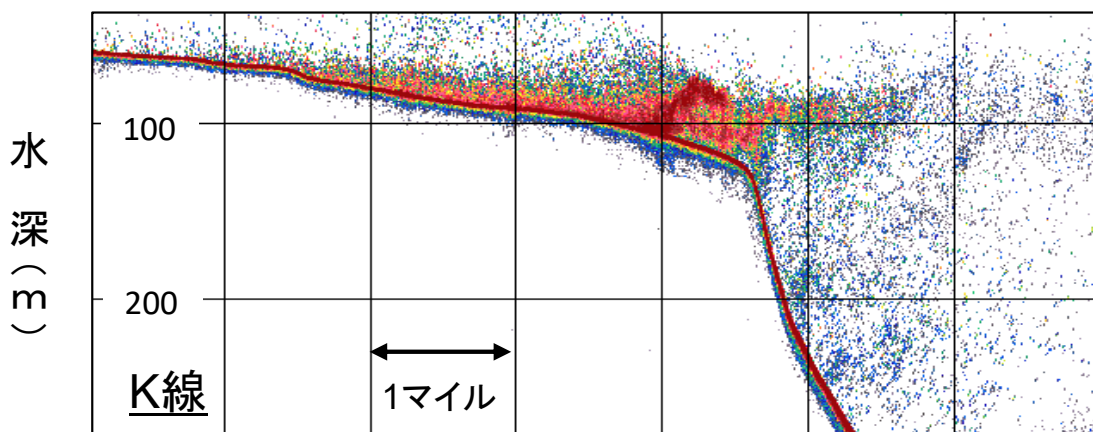
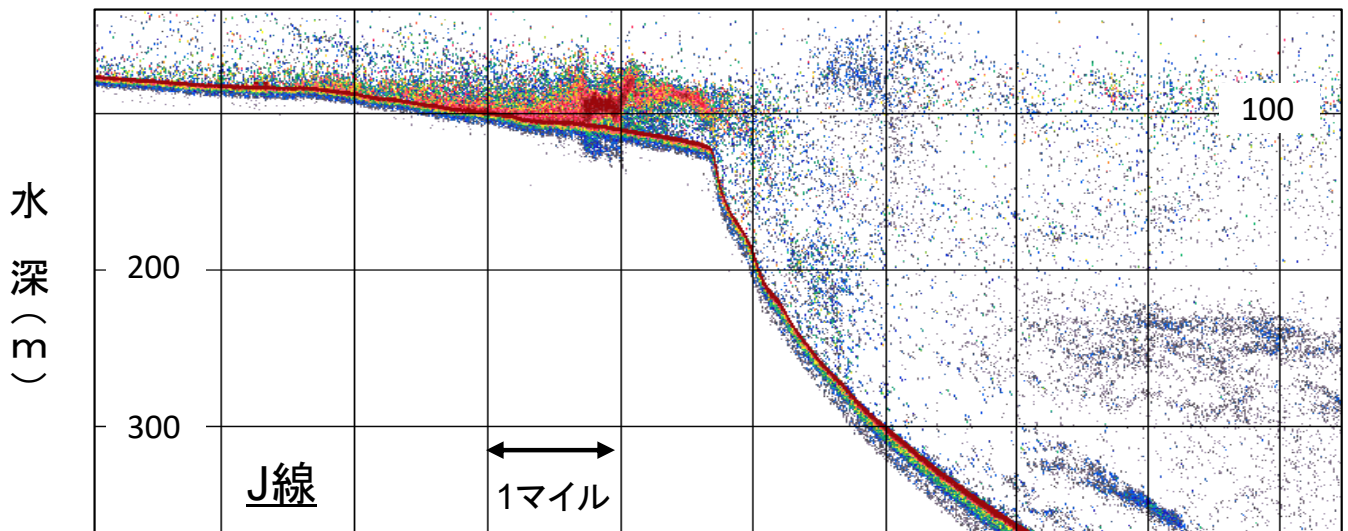
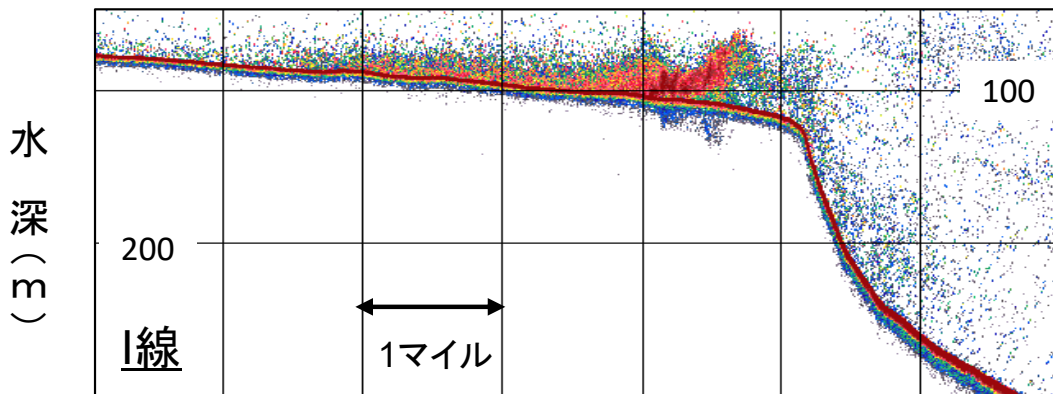
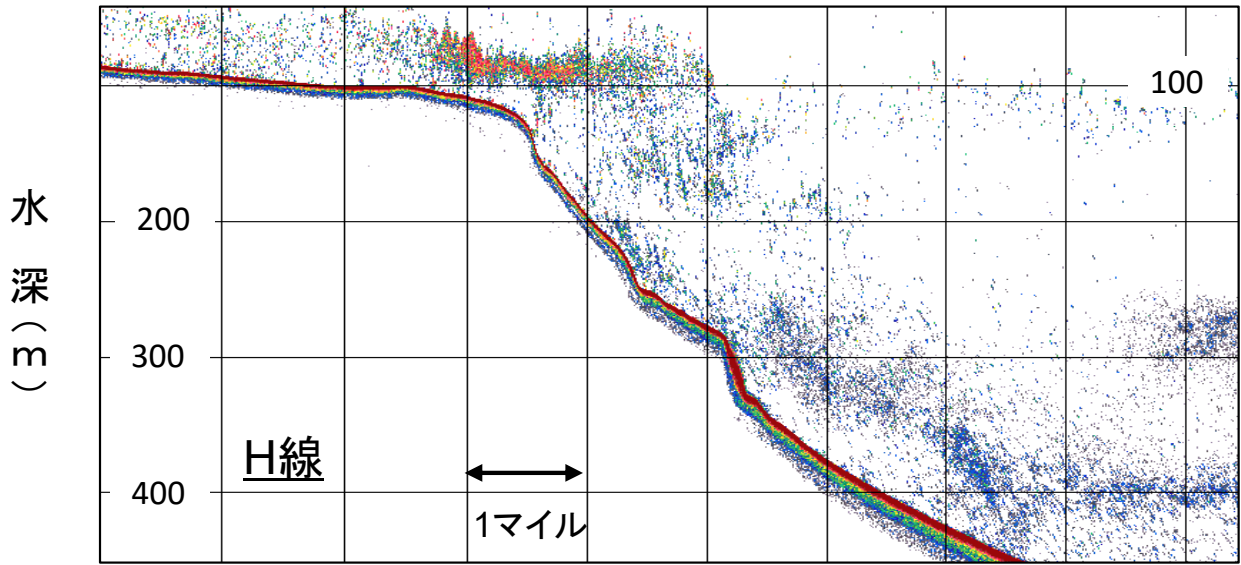


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

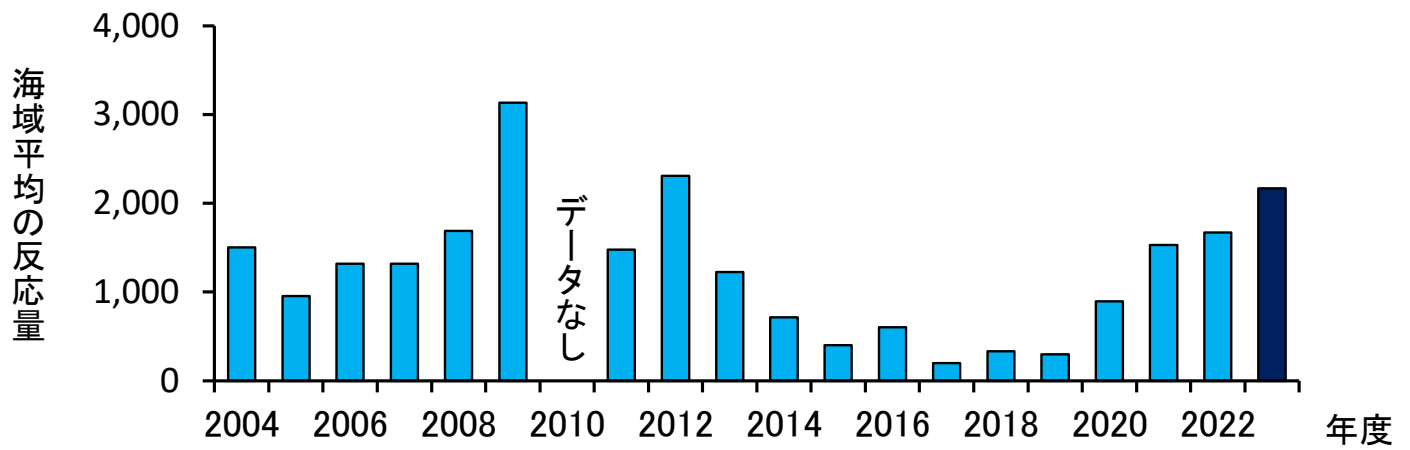


図3 調査海域における魚探反応量の推移

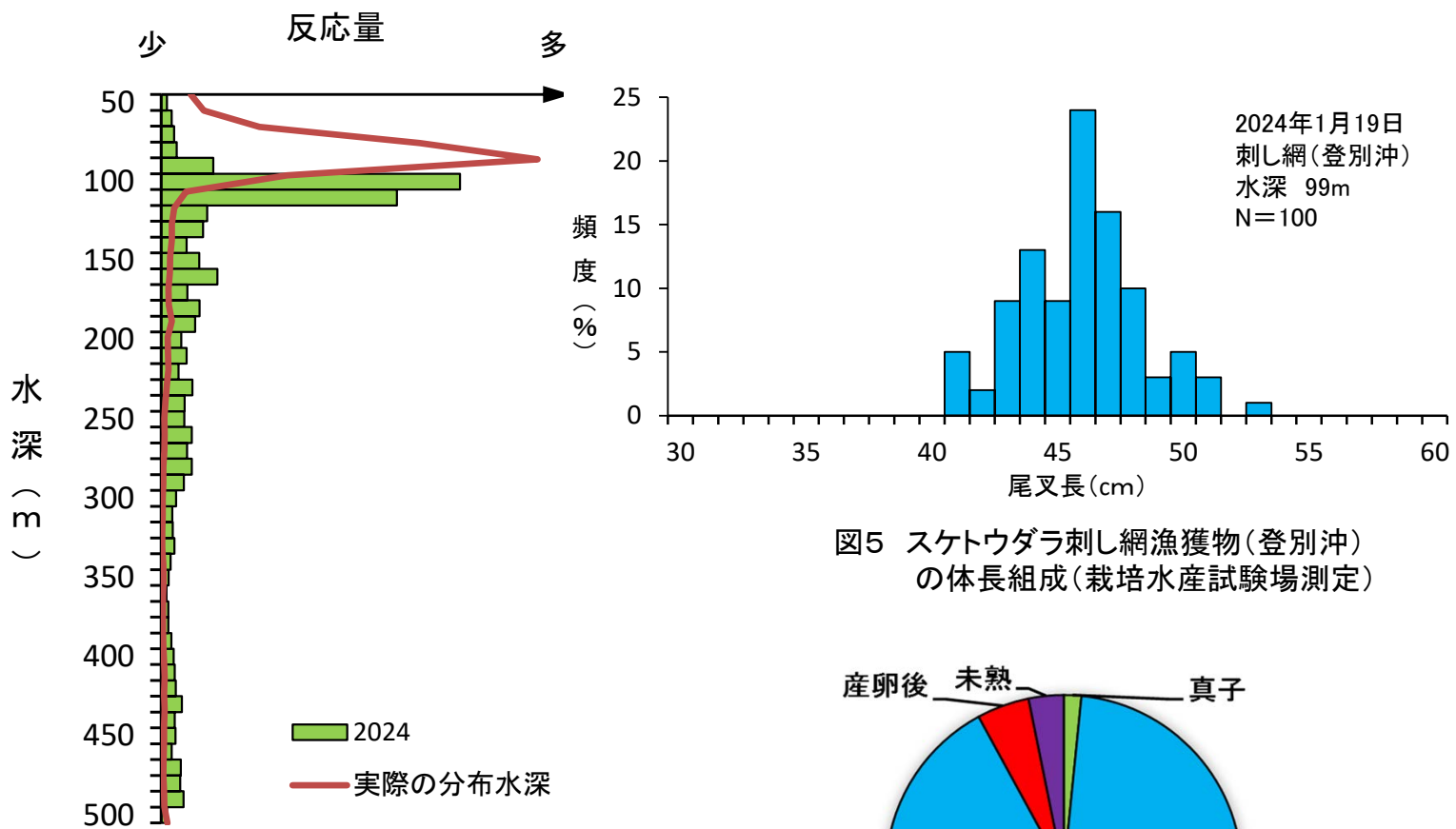


図4 水深別の魚探反応量

図5 スケトウダラ刺し網漁獲物(登別沖)の体長組成(栽培水産試験場測定)

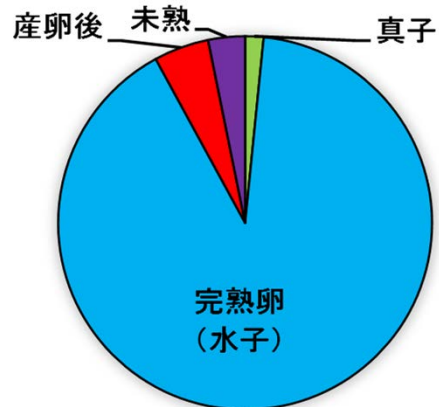


図6 刺し網漁獲物の成熟状態(メス)